

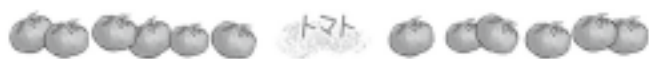
野菜



わくわく家庭菜園トマト・ナス・キュウリ

野菜

迫本 泰山
上島営農指導センター
080-1729-1639



・追肥のポイント

肥えた土の場合、一般的に追肥の必要はありませんが、一番目の果実がピンポン玉大になったころ化成肥料を1本に10g位をトマトの株元にまき、土に軽く混ぜます。

※一度に多く追肥をすると根が傷んだり、果実の尻腐れがでることがありますので注意してください。また石灰が不足することにより尻腐れが発生します。

・摘芯

(新芽を摘み取ることを)する

支柱の高さ位に茎が伸びると5～6花房がつかますので、一番上の花房の上の葉を2枚残して摘心しましょう。



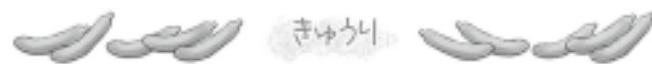
・追肥

実が付き出してから、化成肥料を1本10g位まき、土とよく混ぜましょう。

その後の追肥は生育の状況を見て通路わきにしましょう

※ナスは1つの花の中に雄しべと雌しべがついています。中心に1本だけある白いのが「雌しべ」、その周りを囲むように複数本ある黄色いのが「雄しべ」。

雌しべが雄しべよりも長くなっていると肥料が足りている証拠。逆に、雌しべが雄しべに埋もれて見えない場合は肥料不足のサインなので、すぐに追肥してやりましょう。



・追肥

肥料がなくなる(肥料切れ)と果実が変形しますので、1ヵ月に2度位追肥しましょう。

1回目は株元に、2回目以降は畔の両わき位のところに追肥しましょう。(1回1㎡あたり30g程度)

・病害虫に注意

きゅうりは病害虫の発生が多い野菜ですので、日頃からよく観察しましょう。

特に葉の表面が白い粉のようなものが発生(うどんこ病)することが多いので、風通しをよくすることが大切です。

3年間の記録がひと目で見渡せる

「3年連用日記」

令和8・9・10年版

お申込み締切日

8月29日

商品お届け日
12月初旬頃

表紙が新しく
変わります！

3年連用日記

2026年 令和8年
2027年 令和9年
2028年 令和10年

農業日記や
人生の記録に
最適！

B5判/日付・曜日入り/
見開き4日分×3年記入式 定価 **4,700円**



お申し込み・問い合わせは
お近くのJA購買店舗窓口へ

この度、JAオリジナル商品に変更となりますので、一部仕様に変更がございます。
12月には品揃えとなりますので、お早めにお申し込みください。なお、万一品切れの場合はご容赦ください。
※記載商品の仕様・価格について予告なく変更する場合があります。※色調については印刷の特性上、
現物と異なる場合があります。※記載商品の無断転載を禁じます。※記載内容は2025年5月現在の情報です。
申込締切後のご注文はお受けすることができません。予めご了承ください。



7月・8月の柑橘園管理



果 樹
原口 悠貴
下島営農指導センター
080-2725-7775

1. 病虫害防除

品 種	散布時期	対象病虫害	農薬名	希釈倍数
温 州	7月上旬 ～中旬	※アザミウマ類 ※ゴマダラカミキリ	リーズン顆粒水和剤	2,000 倍
		黒点病	混用 エムダイファー水和剤	600 倍
	8月上旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	400 倍
	8月中旬～下旬	ミカンハダニ ミカンサビダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍
中晩柑	7月中旬	※ゴマダラカミキリ ※アザミウマ類	リーズン顆粒水和剤	2,000 倍
		黒点病	混用 エムダイファー水和剤	600 倍
	8月中旬 ～下旬	黒点病	ジマンダイセン水和剤	600 倍
		ミカンハダニ ミカンサビダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍
共通	7月中旬 ～9月中旬	ミカンハダニ、サビダニ	バロックフロアブル	2,000 倍
		ミカンハダニ、サビダニ	ダニゲッターフロアブル	2,000 倍
		ミカンハダニ	ダニオーテフロアブル	3,000 倍
		ミカンハダニ、ホコリダニ	スターマイトフロアブル	2,000 倍
	発生時	カメムシ	スターフル顆粒水溶剤	2,000 倍
			テルスターフロアブル	3,000 倍

※アザミウマ類、ゴマダラカミキリはアドマイヤーフロアブル 4,000倍も使用可能です。(7月)

※カイガラムシ多発の場合は、モスピラン SL2,000 倍を散布しましょう。

※収穫前日数が近い場合は、ナティーボ (F) 1,500 倍を散布しましょう。

2. 施肥 ○省カタイプ(年2回施肥タイプ)

対象品種	肥料名	施肥時期	10a当たり
デコポン・清見・甘夏・ 河内晩柑・パール柑	新アグリロング 28号	7月上旬	5袋

3. 葉面散布

目 的	薬 剤 名	希釈倍数	備 考
果皮強化対策	ジューシーカル 又は バイカルティ	1,000倍	温州・デコポン等

4. 摘果の実施

○温州みかん・・・小玉果や病虫害果を中心に摘果を行い、日焼けしやすい上向き果も摘果しましょう。

○中晩柑・・・7月中旬までに粗摘果が終わるよう作業を進め、最終着果数の2割増し程度まで落とします。品質の悪い裾成り・内成りから行い、その後赤道部と樹上部の小玉果や傷果を中心に摘果しましょう。



7月農作業メモ



水 稲
田代 好幸
農畜産課
0969-22-1105

◎いもち病、カメムシ、ウンカ対策

例年、6月下旬から出穂が始まっています。水田の約5～6割程度の出穂が確認できる時期に、1回目の本田防除として「トライスタークル」の散布をお願いします。また、2回目の本田防除は7日～10日後に「キラップ」の散布を行ってください。尚、収穫の14日前までに散布しましょう。(6月号記載分)

注) 本田防除の実施後、病虫害が確認される場合には臨時防除で対策をお願いします。散布する場合、農薬散布の回数制限・散布時期の制限がありますので、注意をお願いします。

注) 臨時防除を実施した場合、出荷米は一般米扱いとなりますが、収量の確保を優先してください。

◎収穫までの水管理

出穂期以降は、米の登熟や品質向上を図るために、間断灌水による水管理を行ってください。酸素の補給、根の活力維持につながります。

落水は、収穫に支障がない限り遅らせてください。(収穫前5～7日

程度)

注) 登熟期に高温障害等による、品質低下が見受けられることから、水管理は十分に注意を行いましょう。

◎収穫・乾燥調整

早い地区では、7月下旬より収穫が始まります。穂のもみの85%程度が黄色く色づいた頃が収穫の最適期です。茎や葉が緑色であっても籾は黄色くなっている事が多いので、注意が必要です。

刈り取り作業では、生もみで長時間放置するとムレ米となりますので、収穫後は速やかに通風乾燥を行ってください。高温乾燥は、胴割れ等の発生原因となります。

注) 籾の乾燥中は、排気ホース等から籾殻が飛散するため、近隣の迷惑にないよう心がけてください。

掛け干しの場合は、期間を3～4日程度を目安として、適正玄米水分15%～16%で脱穀してください。尚、玄米仕上げ水分は15%を目標としてください。過乾燥や高水分は、品質・食味を落としますので注意しましょう。